

〈日本語・日本文化研修留学生修了報告書〉

# 日本人大学生の伝統的なお正月文化に対する考え方

ウリット アイリン

## 要 旨

本稿は日本人大学生のお正月の伝統文化に対する考え方に関する調査・研究したものである。調査は、日本人大学生30名を対象にした。その結果、半数以上の被験者が伝統的なお正月を過ごしていることが分かった。しかし、お正月文化の意味と信仰をあまり知らないため、お正月の信仰を信じている者は23.3%を超えなかった。現代、社会において伝統的なお正月は過ごしにくいという考え方があったが、半数以上の大学生がお正月の文化を残していきたいとのことである。

### 【キーワード】

お正月、伝統文化、大学生、信仰

## 1. はじめに

お正月とは『日本の年中行事事典』によると、「一年の最初の月、およびその月に行われる行事をさして正月という。時間と行事双方をさしている呼称である。正月の行事は、その準備にとりかかる十二月中・下旬の松迎えや煤払いなどの諸行事から始まり、一月二十日前後に行われる二十日正月・シマイ正月などとよばれる行事で終了すると考えられているところが多い」と定義されている。

以上の定義・信仰を踏まえ、本稿では現代におけるお正月の伝統文化の状況や若者のお正月に関する考え方について調査・研究していく。

## 2. 先行研究

現在まで様々な日本人の伝統的なお正月文化に関する調査や研究が実施されてきた。まず、高見・松田・柴田（2017）は「女子大学生における年末年始の食習慣について 一家庭のお正月料理に及ぼす調理実習の影響―」についての研究を行った。それによると、「年末では約6割が年越しそばを、正月では9割以上が雑煮・おせち料理などを準備する習慣があった」ということである。また、高澤・深澤・矢島（2018）は「大学生の正月料理における嗜

好性と伝承性に関する実態調査」を行い大学生を対象として伝統的なお正月の食文化を中心に研究した。その結果、「正月料理は8割以上が好んでおり、食べる理由は、約7割が『お正月に食べる習慣になっているから』と回答していた」と述べられている。上述の研究では大学生を対象として伝統的なお正月の行事食の喫食状況を明確にした。そして、現在においても大学生が伝統的なお正月の食文化を保持しているという結果は共通している。さらに、宇都宮、他(2018)は「正月行事と一年末年始の実態調査―」に関する論文において、①年末に行う正月を迎える準備、②年始に行う正月行事、③おせち料理や雑煮、お屠蘇などの行事食の喫食について各年代と各地域の日本人を対象にし、調査を実施した。その結果、現在、正月三が日の概念は薄れてきたが、正月を通して伝統文化、行事食を維持・継承している実態がみられるという結果になった。以上のように、現在においても伝統的なお正月文化が継承されていることが明らかになったが、伝統的な文化の変化も見られるということが分かってきた。

そこで、本稿では、「日本人大学生の伝統的なお正月文化に対する考え方」というテーマで研究していく。まず、研究項目としてはお正月の食文化をさらに広げ、伝統的なお正月文化の中で、お正月飾り、年賀状、初詣、食文化の4項目を取り上げ、調査を行う。また、伝統的なお正月文化についての実施状況を明確にするだけでなく、大学生の考え方も明らかにしていく。

### 3. 日本人大学生の伝統的なお正月文化の考え方に対する研究方法

お正月の行事の基本的な情報や信仰を踏まえ、「日本人大学生のお正月の伝統文化に対する考え方」に関するアンケート調査を実施した。以下、調査目的・調査対象者・調査時期・質問項目の概要を箇条書きで示す。

**調査目的** ①日本の若者がお正月の伝統文化の信仰を信じているかどうか、②お正月の伝統文化は現代において昔通りに行われているか、③現在、お正月の伝統的な文化の一部が消えつつあるかどうか、④現在の生活が伝統的な文化に対して影響を与えているかの4点について調査・分析していく。

**調査対象者** 日本人大学生30名(男性9名、女性21名)

**調査時期** 2022年5月上旬から2022年6月上旬にかけて

**質問項目** 1. お正月の伝統文化のうち、①正月飾り ②年賀状 ③初詣

④食文化の4項目に対する実施状況、信仰についての考え方。

## 2. お正月の伝統文化に対する考え方。

### 4. アンケート調査結果

アンケート調査に回答した方は30名（男性9名・女性21名）であり、1年生8名（26.7%）2年生2名（6.7%）、3年生12名（40%）、4年生以上8名（26.7%）となった。住宅の形態は一軒家が19名（63.3%）、集合住宅11名（36.7%）であった。以下、項目別に回答をまとめる。

#### 4.1 お正月飾り

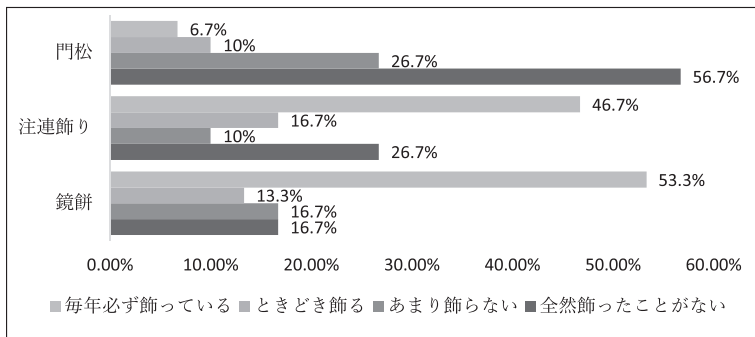


図1 お正月にお正月飾りを飾るか

まず、「お正月に門松<sup>1)</sup>を飾るか」という質問に対しては、「全然飾ったことがない」が最も多く17名（56.7%）であり、「あまり飾らない」が8名（26.7%）、「ときどき飾る」が3名（10%）、「毎年必ず飾っている」が2名（6.7%）であった（図1参照）。一番多く回答された「全然飾ったことがない」理由としては「家に飾りがないから」という理由が多く述べられていた。その他は「うちの家ではその習慣がない」、「飾るスペースがない」、「一般的にお家に飾るよりお店などに飾ってあるイメージ」と回答されていた。一方、「ときどき飾る」と「毎年必ず飾っている」と回答した理由は「毎年親が飾っている」ということであった。さらに、「小さい頃のみ飾っていたが、最近では購入しない」という回答もあった。

次に、「お正月に注連飾り<sup>2)</sup>を飾るか」という質問に対して、「毎年必ず飾っている」が14名(46.7%)であり、最も多かった。「全然飾ったことがない」が8名(26.7%)、「ときどき飾る」が5名(16.7%)、「あまり飾らない」が3名(10%)という結果になった(図1参照)。飾っている理由は「両親や家族が飾っているから」、「家族の中での習慣となっている」という理由が多かった。また、「門松より飾りやすいので、よく飾る」という意見もあった。一方、飾らない理由は、「注連飾りのことを知らないから」という回答が多かった。

そして、「お正月に鏡餅を飾るか」という質問に対しては、「毎年必ず飾っている」が16名(53.3%)であり、最も多かった。「全然飾ったことがない」が5名(16.7%)、「あまり飾らない」が5名(16.7%)、「ときどき飾る」が4名(13.3%)であった(図1参照)。飾っている理由については、「簡単に用意でき、飾りやすい」という回答が多かった。また、「後で食べるから」、「家族が飾っているから」、「お店でも気軽に入手でき、お正月っぽさを感じるから」という回答もあった。

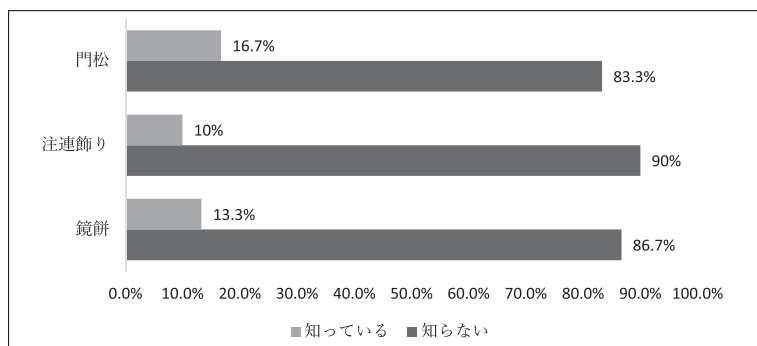


図2 お正月飾りを飾る意味を知っているか

「門松を飾る意味を知っているか」という質問に対して、知っている者が5名(16.7%)、知らない者が25名(83.3%)となった(図2参照)。「注連飾りを飾る意味を知っているか」に対しては、知っている者が3名(10%)、知らない者が27名(90%)であり、「鏡餅を飾る意味を知っているか」に対しては、知っている者が4名(13.3%)、知らない者が26名(86.7%)という結果であった(図2参照)。

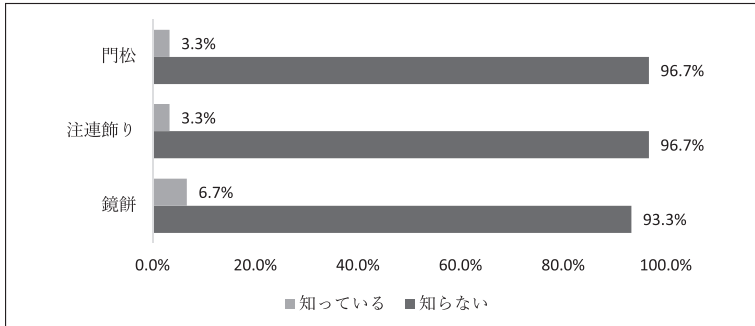


図3 お正月飾りを飾る信仰を知っているか

「門松と注連飾りを飾る信仰を知っているか」に対しては、それぞれ知っている者が1名(3.3%)、知らない者が29名(96.7%)であった(図3参照)。「鏡餅に関する信仰を知っているか」に対しては、知っている者が2名(6.7%)、知らない者が28名(93.3%)という結果になった(図3参照)。

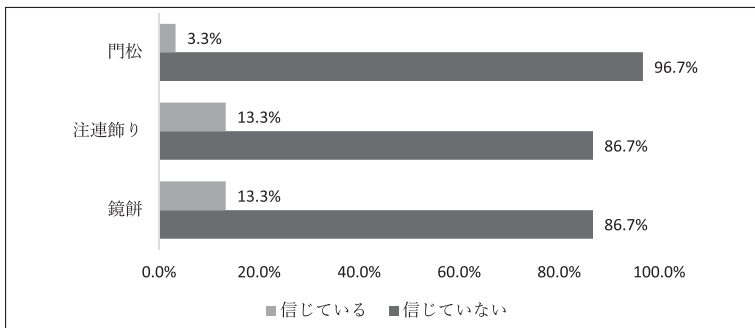


図4 お正月飾りを飾る信仰を信じているか

「門松を飾る信仰を信じているか」に対しては、信じている者が1名(3.3%)、信じていない者が29名(96.7%)であった(図4参照)。信じている理由は「先祖がしていたから」などが挙げられた。つまり、被験者の先祖が門松を飾る習慣や信仰について教えたということである。一方、信じていない理由としては、「あまりその信仰について知らないため」という回答が多かった。「注連飾りを飾る信仰を信じているか」に対しては、信じている者が4名(13.3%)、

信じていない者が26名(86.7%)であった(図4参照)。信じている理由としては、「以前、おじいちゃんが教えてくれたため、信じるようにしている」、「意味は知らないが、毎年飾っているから」という回答があった。信じていない理由は、「注連飾りを飾る理由を知らないから」などが挙げられた。「鏡餅を飾る信仰を信じているか」に対して、信じている者が4名(13.3%)、信じていない者が26名(86.7%)という結果になった(図4参照)。信じている理由は「意味はあまり知らないが、毎年飾っているから」という回答が挙げられた。一方、信じていない理由としては、「信仰を知らないから」という回答が多かった。また、「神を信じていない」、「特に気にしていないから」という回答もあった。

以上をまとめると、正月飾りに関しては「毎年必ず飾っている」、「ときどき飾る」という回答をあわせて、門松を飾っている者が少なかったのに対して、注連飾りと鏡餅は半数近くが飾っていることが分かった。これは、門松は大きく準備しにくく飾る場所もない反面、注連飾りと鏡餅は門松より飾りやすいからだと考えられる。また、お正月飾りを飾るか否かは、門松は一軒家に住んでいる人が19名中4名(21.1%)が飾っており、集合住宅に住んでいる人は11名中1名(9.1%)が飾っているという結果となり、住宅の形態との関係性が認められた。それに対して、注連飾りは一軒家に住んでいる人が10名(52.6%)、集合住宅に住んでいる人が9名(81.8%)飾っているという結果であり、鏡餅は一軒家に住んでいる人が10名(52.6%)、集合住宅に住んでいる人が10名(90.9%)飾っているという結果となり、住宅の形態には関係がなかった。

お正月飾りを飾らない理由を分析すると、主に次の3点が挙げられる。1つ目は、家族で飾る習慣がないから、2つ目は、準備が面倒であるため、3つ目は飾る場所がないからである。一方、飾っている者のほとんどが家族が昔からそのような習慣を続けているからという回答であった。最後に、正月飾りの信仰に関して、門松、注連飾り、鏡餅の全てにおいて、「信じていない」という回答が85%以上であった。信じていない理由としては、「信仰や意味を知らないから」という理由が多数を占めた。一方、信じている理由は「家族が教えてくれたから」、「意味はあまり知らないが、毎年飾っているから」と回答していた。

## 4.2 年賀状

「年賀状を送るか」という質問に対して、送る者が19名(63.3%)、送らない者が11名(36.7%)となった。「誰に送ったか」という質問に対しては、友人22名(64.7%)、家族3名(8.9%)、先生7名(20.6%)、親戚1名(2.9%)、祖父母1名(2.9%)という回答であった。送る理由としては、「みんな送るから」、「友達とのコミュニケーションのため」、「日本の文化だから」、「遠方の友達の近況を知るため」などが挙げられた。一方、送らない理由としては、「LINEなどで手軽に新年のあいさつができるため」、「以前までは送っていたが、だんだんと面倒くさくなってきたから」という理由の回答が多かった。また、「小さいころから高校生にかけてまでは送っていたが、大学生になってからは送らなくなった」という回答もあった。

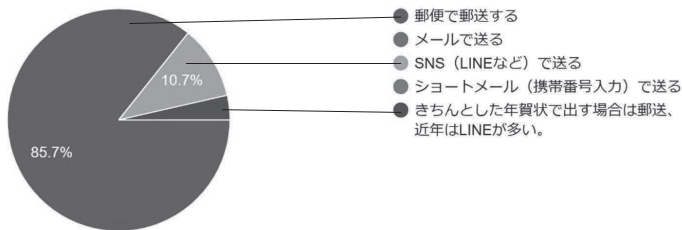


図5 年賀状送付手段

「送ったことがある方は、どうやって送るか」に対して、「郵便で郵送する」が一番多く24名(85.7%)、「SNS (LINEなど) で送る」が3名(10.7%)、その他1名(3.6%)となった(図5参照)。「年賀状の意味を知っているか」に対しては、知らない者が20名(66.7%)、知っている者が10名(33.3%)であった。

以上の結果から、年賀状を送る者は半数以上であり、送付方法は、「郵便で郵送する」が最も多かった。現在、携帯電話が一般的になってきたが、伝統文化に沿って郵送する者が多数を占めることが分かった。その理由としては「伝統的に正しいと思っていた」、「年賀状は基本的にはがきで送るのではないか」というような回答が多く挙げられた。さらに、「年賀状という形は郵便でしか出来ないと考えているから」という回答をした学生が4名いた。

### 4.3 初詣

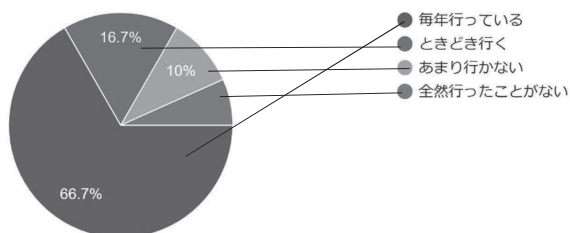


図6 初詣に行ったことがあるか

「初詣に行ったことがあるか」に対して、「毎年行っている」が一番多く20名（66.7%）であり、「ときどき行く」が5名（16.7%）、「あまり行かない」が3名（10.0%）、「全然行ったことがない」が2名（6.7%）という結果になった（図6参照）。その理由としては、行く者は、「毎年恒例である」という理由を6名（24.0%）が回答しており、それが最も多い理由であった。また、「縁起が良い」や「良い年を祈るため」という縁起を担ぐ理由を4名（16.0%）が挙げていた。一方、行かない理由としては「人が多い」という者が3名（12.0%）おり、最も多かった。次に、「何の目的で行くか」という質問に対しては、「昨年への感謝」、「新年の祈願」、「おみくじを引く」という回答が多かった。

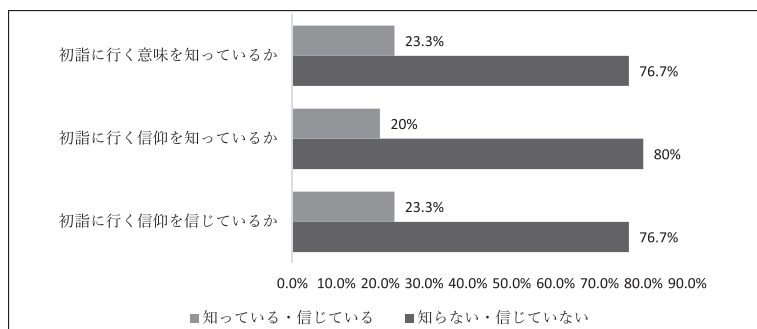


図7 初詣に行く意味と信仰を知っているか・信じているか

「初詣に行く意味を知っているか」という質問に対して、知っている者が7名（23.3%）、知らない者が23名（76.7%）となった（図7参照）。「初詣に行



く信仰を知っているか」に対しては、知っている者が6名(20.0%)、知らない者が24名(80.0%)であった(図7参照)。「初詣に行く信仰を信じているか」に対しては、信じている者が7名(23.3%)、信じていない者が23名(76.7%)という結果になった(図7参照)。

信じている理由としては、「信仰は知らないが、ほぼ毎年行っているから」という回答が多かった。その他は、「理由は特にない。神様はいると思うか」という質問に対し根拠を提示できないのと同じ、「初詣で神様の前で手を合わせることで、神にすがる気持ちになるから」などが挙げられた。一方、信じていない理由は、「宗教を信じるか、というより古くからの日本の風習・文化として行っている」、「平安とか、健康とか、神に頼るより、自分を頼った方がいい」などという理由が述べられた。

最後に、「初詣に行く時、和服で行くか」に対しては、「和服を着る」と回答した者が1名(3.3%)、「和服を着ない」と回答した者が29名(96.7%)であった。着ない理由として、一番多かった理由は「和服を持っていないから」であり11名が回答した。その他は、「寒いため」、「面倒」、「歩いて神社まで行くので、和服は着ない。着付けができない」という理由が述べられていた。一方、「和服を着る」と回答した者は「おばあちゃんが着付けをしてくれて、伝統を守っている気がするから」という理由を述べていた。

#### 4.4 食文化

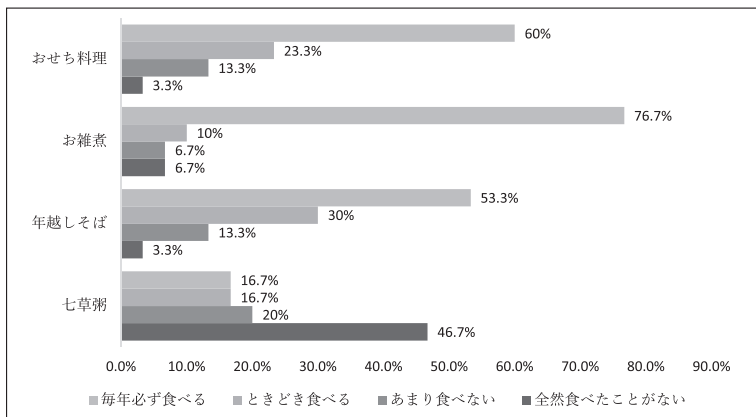


図8 お正月の行事食を食べるか

「お正月におせち料理を食べるか」に対しては、「毎年食べている」が一番多く18名(60.0%)、「ときどき食べる」が7名(23.3%)、「あまり食べない」が4名(13.3%)、「全然食べたことがない」が1名(3.3%)という結果になった(図8参照)。食べる理由としては、「家族が用意してくれるから」という回答が一番多く11名(44.0%)、「家族の習慣になっているから」という回答が8名(32.0%)であった。食べない理由としては、「うちの家ではその習慣がない」、「好きではないから」、「あまり好みの味じゃないから」などが挙がっていた。おせち料理をどのように準備するかについては、「手作り」が18名(72.0%)、「お取り寄せ」が9名(36.0%)、「スーパーなどで購入する」が9名(36.0%)という回答であった(図9参照)。

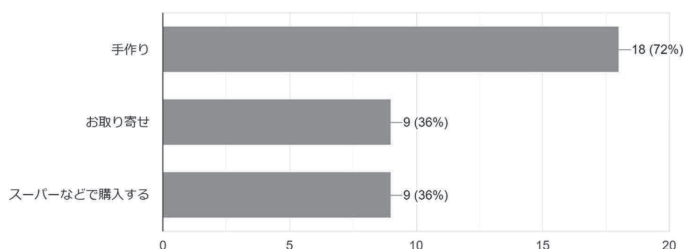


図9 おせち料理の準備方法

「お正月にお雑煮を食べるか」に対しては、「毎年食べている」が一番多く23名(76.7%)であり、「ときどき食べる」が3名(10.0%)、「あまり食べない」が2名(6.7%)、「全然食べたことがない」が2名(6.7%)という結果になった(図8参照)。お雑煮を食べる理由として一番多かったのは「家族が作ってくれるから」で7名(26.9%)が回答した。また、「美味しいから」が4名(15.4%)、「自分や家族が好きだから」が4名(15.4%)であった。一方、食べない理由としては、「うちの家ではその習慣がない」、「一人暮らしで必ず食べる程重要視していない」、「作らないから」、「あまり好きじゃない」などが挙げられた。

「大晦日に年越しそばを食べるか」という質問に対しては、「毎年食べている」が一番多く16名(53.3%)、「ときどき食べる」が9名(30.0%)、「あまり食べない」が4名(13.3%)、「全然食べたことがない」が1名(3.3%)という結果になった(図8参照)。年越しそばを食べる理由の中で、「習慣になってい

るから」や「毎年の恒例行事だから」という回答が10名（40.0%）あり、最も多かった。それに対して、食べない理由としては、「そばが嫌いだから」、「うちの家ではその習慣がない」と回答されていた。

「1月7日に七草粥<sup>3)</sup>を食べるか」という質問に対しては、「全然食べたことがない」が一番多く14名（46.7%）で、「あまり食べない」が6名（20.0%）、「毎年必ず食べている」が5名（16.7%）、「ときどき食べる」が5名（16.7%）であった（図8参照）。食べる理由は「美味しいから」、「毎年食べることが当たり前になっているから」、「実家にいたときは食べていた。季節の料理を食べることが好きだから」などが挙げられた。食べない理由としては、「食べるのを忘れたから」と「意識していないから」のような理由をあわせて、4名の回答があった。また、「家族では七草粥を食べる習慣がない」という回答が3名あった。

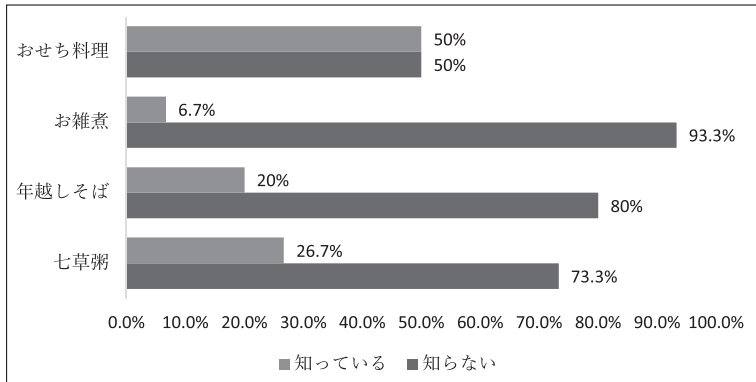


図10 お正月の食文化の意味を知っているか

「お正月におせち料理を食べる意味を知っているか」に対して、知っている者が15名（50.0%）、知らない者が15名（50.0%）であった（図10参照）。「お正月にお雑煮を食べる意味を知っているか」に対しては、知っている者が2名（6.7%）、知らない者が28名（93.3%）であり、「大晦日に年越しそばを食べる意味を知っているか」に対しては、知っている者が6名（20.0%）、知らない者が24名（80.0%）という結果になった（図10参照）。「1月7日に七草粥を食べる意味を知っているか」に対しては、知っている者が8名（26.7%）、知らない者が22名（73.3%）であった（図10参照）。

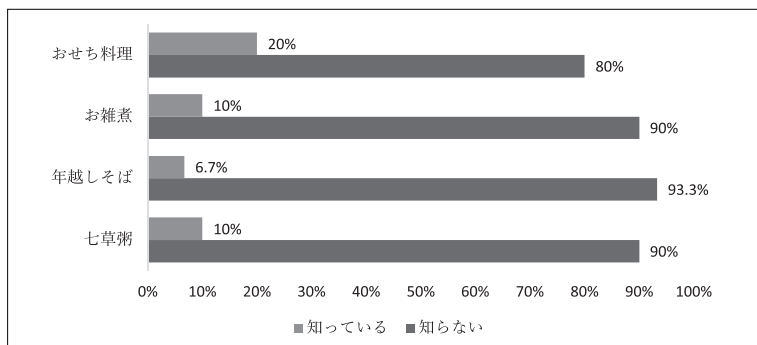


図11 お正月の食文化の信仰を知っているか

「お正月におせち料理を食べる信仰を知っているか」に対しては、知っている者が6名(20.0%)、知らない者が24名(80.0%)であり、「お正月にお雑煮を食べる信仰を知っているか」と「1月7日に七草粥を食べる信仰を知っているか」に対しては、知っている者が3名(10.0%)、知らない者が27名(90.0%)であった(図11参照)。「大晦日に年越しそばを食べる信仰を知っているか」に対しては、知っている者が2名(6.7%)、知らない者が28名(93.3%)という結果になった(図11参照)。

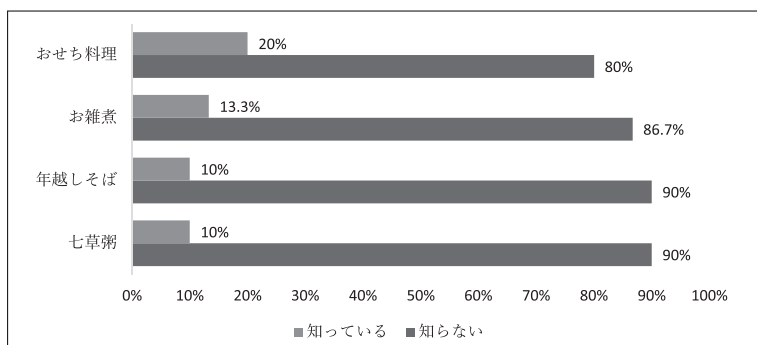


図12 お正月の食文化の信仰を信じているか

「お正月におせち料理を食べる信仰を信じているか」に対しては、信じている者が6名(20.0%)、信じていない者が24名(80.0%)であり、「お正月にお雑煮を食べる信仰を信じているか」に対しては、信じている者が4名(13.3%)、

信じていない者が26名(86.7%)であった(図12参照)。「大晦日に年越しそばを食べる信仰を信じているか」と「1月7日に七草粥を食べる信仰を信じているか」に対しては、信じている者が3名(10.0%)、信じていない者が27名(90.0%)という結果になった(図12参照)。

正月の食文化である「おせち料理」、「お雑煮」、「年越しそば」を「毎年必ず食べている」と「ときどき食べる」という回答は、半数を超えることがなかった。一方、「七草粥」については、「全然食べたことがない」が一番多かった。七草粥は他の三つの正月の伝統的な食事と比較して、あまり意識されておらず、それが結果と直結することが明らかになった。正月の食文化に関する意味と信仰については、他の項目と同様、「知らない」という回答が多かった。また、正月の食文化を食べる信仰を信じるかについては、「信じていない」が80%以上を占めた。その理由としては「宗教を信じている、というよりは日本の風習・文化として食べている」、「信仰とするほど信じていないから」、「とりあえず毎年の恒例行事になっているから」、「意味を知らないから」などが挙げられた。一方、信じている理由は、「毎年食べているから」という回答が多かった。その他は、「自分は食べないが、日本は食べる文化だから」、「日本がそういう文化だから」などが挙がっていた。

#### 4.5 お正月に対する考え方

まず、「現代の生活が伝統的な文化に対して影響を与えると思うか」という質問に「はい」と回答した者が24名(80.0%)、「いいえ」が6名(20.0%)であった。「はい」という回答の理由としては、「伝統文化の消滅」、「伝統的な文化を知らない世代が増えているため、薄れて行く可能性がある」という回答が多かった。また、「現代の生活に合わせる」、「簡単に参加できるようになった」、「伝統的な意味はなくなって来ているが、ひとつのイベントとして挨拶をしたり気持ちを切り替えて生活しようとする」という面で影響を与えていると思う」という回答もあった。

次に、「現代社会において、伝統的なお正月の祝いはやりやすいか否か」に対して、「やりやすい」が13名(43.3%)、「やりにくい」が17名(56.7%)であった。「やりやすい」という回答には、「食事や飾りものなどを買うことができるから」という理由を7名が挙げていた。一方、「やりにくい」という回答の理由としては、「正月に親戚などを集めにくくなってきた」という回答が一番多かった。その他は「準備が面倒だから」という理由が挙がっていた。

「日本の伝統的なお正月文化についてどう思うか」という質問に対する回答としては、「素敵だと思うし、楽しいから受け継いで行くべきだ」、「もっと若者も正月文化について知るべき」、「これからも残していきたい」、「一年のなかで大きなイベントだし、賑やかな感じが好きだ」という回答が半数を超えた。

「日本の伝統的なお正月文化というとな何をイメージするか」（複数回答可）については、「おせち料理」が最も多く11名で、「お餅」が7名、「初詣」が6名、「お年玉」が5名、「親戚や家族が集まること」が5名、「凧揚げ」が3名、「お雑煮」が2名、その他は「年越しそば」、「食べ物」、「着物」、「富士山」、「獅子舞い」、「羽根つき」、「カルタ」、「初日の出」、「門松」、「日本の日本らしい文化を思い出す日」が1名ずつであった。

最後に、「お正月文化で何かこだわりのあるものがあるか」という質問に対しては、自分自身のこだわりのあるものを取り上げた者が28名（93.3%）、「こだわりのあるものがない」と回答した者が2名（6.7%）という結果になった。取り上げられたこだわりのあるものは、「家族で集まること」、「おせち料理」、「お雑煮などのお祝いの料理を食べること」、「初詣に行くこと」などが挙げられた。その他、「毎年、夜12時ちょうどに初詣に行く。夜中にいくとまた違った感じがしていい」、「新年のカウントダウンをする、紅白歌合戦（NHK）を見る」、「おせちに栗きんとんを入れること」、「仕分けチェック、駅伝、天皇杯決勝を見る（テレビ番組）」、「花札をする」、「ゆっくりガラガラする」、「毎年家族で食卓を囲む」、「毎年、初日の出を見に行く」、「おせち料理のそれぞれの由来を言い当てるゲームをする」という回答があった。

## 5. 考察

「日本人大学生の伝統的なお正月文化に対する考え方」に関するアンケート調査の4つの目的を踏まえて以下、結果を分析していく。

まず、伝統的なお正月行事が現在においても普通に行われているかについてであるが、「毎年している」と「ときどきする」という回答をあわせると、「門松」と「七草粥」以外の項目は60%以上を占める結果となった。伝統的なお正月行事を行っている理由は様々な回答があったが、主な理由は二つある。一つ目は家族がしているからであり、二つ目は日本の文化だからという理由である。一方、お正月の伝統行事をしない理由も主に二つある。一つ目は家族にはそのような習慣がないからであり、二つ目は現代社会においてやりに

くいからである。

お正月文化の信仰を信じているかについては、全ての項目で80%以上が「信じていない」と回答しており、信仰とは関係なく、習慣として定着しているので、やり続けているという理由が多かった。また、日本人大学生の80%以上はお正月の信仰を知らなかった。その結果は信仰を信じる理由に関連する。要するに、伝統的な信仰を知らないため、その信仰を信じていないということである。また、信じていると回答している者は信仰についてはあまり知らないが、毎年その習慣を行っているため、信じるようになったという回答もあった。以上のことから、ほとんどの対象者は伝統的なお正月文化についての信仰を信じていないことが分かった。

次に、現在、伝統的なお正月文化の一部が消えつつあるか否かについてであるが、アンケート調査の結果を見ると、現在も伝統文化をやり続けているという回答の方が多かった。しかし、面倒だと思うので、行っていない者も全項目でおよそ10名いることが分かった。また、やり続けているが、信仰や意味についてはあまり意識されていないことが明らかになった。伝統的なお正月文化の意味については、「おせち料理」の意味を知っている者は50%を占め、一番知っている者が多いことが分かった。次に、「年賀状」が33.3%、「七草粥」が26.7%と続いた。他の項目は知っている者が25%を超えなかった。また、全ての項目でお正月の伝統文化の信仰を知っている者は20%以下となった。さらに、「日本の伝統的なお正月文化についてどう思うか」という質問に対しては、「伝統文化の消滅」、「伝統的な文化を知らない世代が増えているため、薄れて行く可能性がある」、「伝統的な文化を軽んじるような悪い影響を与える」という回答があった。一方、伝統的な文化を残したいという回答も存在した。つまり、伝統文化は一部消えつつあるが、それほど深刻ではないという現状が見えてきた。それは、「良い文化であり、現在においても残してほしい」と回答した者が30%いたことからもうかがえる。しかし、お正月の信仰については、アンケート結果から80%以上が信じていないことが分かった。このことから、現在のお正月は一つのイベントになったとも言える。

現代の生活が伝統的な文化に対して与える影響については、かなり影響を及ぼしていることが分かった。最も影響を及ぼしていたのは年賀状である。LINEなどのSNSが一般化していることにより、SNSでお正月のお祝いのメッセージを送るのみで十分だと考え、郵便で送る必要はないという回答が4名であった。また、現在様々な理由で昔のように親戚が集まり、お祝いをする

こと自体が困難になってきた。一方、現在の生活スタイルの影響で、一部のお正月文化が簡易化されたことがうかがえる。例えば、お正月の食文化やお正月飾りなどを自分で準備せず、スーパーなどで買うことができるようになった。つまり、現在の生活スタイルの影響により、一部の伝統文化が変化したが、良い影響もあることが分かった。

## 6. まとめと今後の課題

本稿では、日本人大学生の伝統的なお正月文化に対する考え方に関するアンケート調査を実施した。その結果、調査で取り上げた「お正月飾り」、「年賀状」、「初詣」、「食文化」の4項目に対して、「門松」と「七草粥」以外の項目は60%以上の被験者が現在においても昔通り伝統的なお正月行事を行っていると回答していた。しかし、伝統的なお正月文化の意味については50%以上が知らないことが分かった。また、伝統的なお正月文化の信仰を知らない者が80%以上を占めた。また、全ての項目で、正月の信仰を信じている者は24%を超えなかった。それは、伝統文化の意味と信仰を知らないことに関連する。つまり、知らないので信じないということである。現在、伝統文化を継承し続けるのは、信仰にはあまり関係なく、習慣として定着しているので、やり続けていると言える。なぜなら、信仰は時代とともに変わってきているからである。つまり、現代の大学生は昔の信仰を信じない傾向が強く表れた。さらに、日本人大学生が伝統的なお正月文化を行っているかについては、家族が大きな影響を及ぼしていた。家族に伝統的な文化を継承するという態度・行動があれば、若者もそれに従う傾向が強いことが分かった。お正月の伝統文化に対する考え方については、伝統文化は続けにくく面倒だと考える人が全体の3分の1ほど存在した。特に、お正月飾りに対する考えに対しては顕著であった。時代が変わり、伝統文化に対する考え方も昔と異なってきた。しかし、13名(43.3%)の学生が現代の技術により、一部の伝統文化が継承しやすくなったという意見を述べていた。調査の結果、現代の日常生活に合わせて伝統文化のやり方を工夫する例もいくつかうかがえた。また、「お正月の伝統文化が継承しにくい」という回答が17名(56.7%)あったが、「お正月文化を残していきたい」という意見が半数以上占めていることが分かった。以上の結果から、日本人大学生はお正月の文化を継承し続ける傾向が強いと言える。このように、日本人大学生のお正月文化に対する考え方はタイの若者の考え方<sup>4)</sup>とほとんど共通している。多くのタイ人も伝統文化をやり続け



ているが、習慣の信仰、意味、目的などをあまり意識していない。昔からの習慣であるので、現在もやり続けなければならないという考え方を有している。

本稿では、30名の大学生を対象としたので、回答の相違がほとんど表れなかった。対象者の数がより多ければ、傾向がさらに明確になる可能性がある。また、年賀状の項目に対しては、送付手段に関する年賀状の定義を見直す必要がある<sup>5)</sup>。さらに、本稿の目的である大学生の伝統的なお正月文化に対する考え方の結果としては、お正月文化を残していきたいという意見が多く見られた。伝統文化を残していく方法については今後の課題として研究していく必要がある。また、残していく上で、現代の日常生活に合わせて工夫する必要があるかどうか、どのように工夫すれば良いかについても研究する必要があると感じる。今後さらに被験者を増やして調査・研究を続けていきたい。

## 謝辞

本稿の作成にあたり、詳細にわたりご指導いただきましたアドバイザー教員の塚薫先生、並びに林翠芳先生に心より感謝の意を申し上げます。

## 注

- 1) 「門松」は、亀田・中道（2020：62）によると、「歳神が降りてくるときの目印であり、歳神を迎える依代の役目を果たす正月飾りの中で最も重要なもの」ということである。
- 2) 「注連飾り」とは亀田・中道（2020：66）では「正月などに家の門や神棚に注連縄を張って飾ることや、その飾りそのもの」と定義されている。注連飾りは同じ発音で「表縄」とも表記し、シメは「占める」を意味している。すなわちシメナワとは、神が占める場所である神前または神事の場に不浄なものの侵入を禁じる印として張る縄のことである。
- 3) 「七草粥」は京都調理師専門学校のホームページ上に、「昔から正月7日の人日の節句の日における行事食である」と書かれている。七草粥を食べる理由としては、無病息災、長寿健康の2つがある。七草粥には、芹、薺、御形、繁縷、仏の座、菘、蘿蔔の7つの野菜を入れる。
- 4) タイでは、4月13日～15日の旧正月と1月1日の新正月を祝う習慣がある。タイの旧正月は「ソンクラーン」と呼ばれ、「水かけ祭り」とも知られている。その期間、実家に戻り、家族全員がお寺などに参拝し、幸福を願い、徳を積んだ

り、瞑想したりする習慣がある。1941年から国際化により、タイのお正月は1月1日になった。12月31日の大晦日には、カウントダウンをする習慣がある。寺院で瞑想したり、礼拝したりする人も大勢いるが、若者たちは、友達と一緒にランドマークでカウントダウンをする。午前0時になると、花火を打ち上げ、賑やかに祝う。

- 5) 調査結果によると、「年賀状という形は郵便でしか出来ないと思っているから」と回答をした学生が4名いたので、年賀状は郵便でしか送れないかについて、定義する必要がある。年賀状は、年賀状日和ホームページ(2020)では、「年始の挨拶である年賀状といえは、はがきを送ることが中心であったが、近年ではメールやSNSアプリ経由で送ることも増えてきた。個人間はもちろん、企業間でも年賀はがきのやり取りを廃止し、メールに切り替えたところも少なくない」と述べられている。このように、郵便ではなく、メールなどで送られるという考え方もあるので、年賀状の送付手段の定義を見直し調査を進めていきたい。

#### 参考文献

- 宇都宮由佳、伊尾木 将之、瀬尾 弘子、江原 絢子、大久保 洋子 (2018)「正月行事と食一年末年始の実態調査―」食文化研究会誌、14巻、p.35-42
- 亀田尚己、中道キャサリン (2020)『日本のしきたり英語表現事典(第2版)』丸善出版株式会社
- 京都調理師専門学校「七草粥を食べる理由とは？」  
<<https://www.kyoto-chorishi.ac.jp/knowledge/c0015/>> (参照2022/4/26)
- 高澤 まき子、深澤 律子、矢島 由佳 (2018)「大学生の正月料理における嗜好性と伝承性に関する実態調査」一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集 70回大会、70巻、p. 181
- 高見 朋子、松田 康子、柴田 圭子 (2017)「女子大学生における年末年始の食習慣について」日本調理科学会大会研究発表要旨集、平成29年度大会(一社)日本調理科学会、29巻、p. 125
- 年賀状日和ホームページ「年賀状はメールで送ってもいいの？基本的な知識やマナーを紹介」(2020/10/16)  
<<https://online.brother.co.jp/ot/dl/nenga/magazine/kiji57/>> (参照2023/1/9)
- 福田アジオ、他 (2012)『知っておきたい日本の年中行事事典』吉川弘文館
- MThai.com「ความเชื่อและกิจกรรมในวันสงกรานต์ วันปีใหม่ไทย (タイのお正月である『ソン

クラーン』の信仰と習慣)」(2019/4/11)

<<https://today.line.me/th/v2/article/LDmVQr>> (参照2022/4/26)

ULIS Irin

(高知大学日本語・日本文化研修留学生・  
タイ国カセサート大学人文学部日本語学科学生)

〈参考資料〉

日本人大学生の伝統なお正月文化に対する考え方に関する調査のご協力のお願い

高知大学 日本語・日本文化研修留学生 ウリット アイリン

はじめまして、タイから来た高知大学の留学生のアイリン・ウリットと申します。日本語・日本文化研修留学生として、「日本人大学生のお正月の伝統文化に対する考え方」について研究しております。このアンケートの結果に基づいて、論文を作成したいと考えております。いただいた回答は論文を執筆するのに使用し、その他の目的には使用しません。また、調査の結果は統計的に処理しますので、個人の回答が公表されることはありません。ぜひとも、調査にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

学年：  1年生  2年生  3年生  4年生  4年生以上

性別：  女性  男性

出身地：

住宅の形態：  一軒家  集合住宅

正月飾り：

質問1 お正月に門松を飾りますか？  毎年  ときどき  あまり  全然 ➡理由

質問2 門松を飾る意味をご存知でしょうか？  はい➡その意味  いいえ

質問3 門松を飾る信仰をご存じですか？  はい➡その信仰  いいえ

質問4 門松を飾る信仰を信じていますか？  はい  いいえ ➡理由

質問5 お正月に注連飾りを飾りますか？  毎年  ときどき  あまり  全然 ➡理由

質問6 注連飾りを飾る意味をご存知でしょうか？  はい➡その意味  いいえ

質問7 注連飾りに関する信仰をご存じですか？  はい➡その信仰  いいえ

質問8 注連飾りを飾る信仰を信じていますか？  はい  いいえ ➡理由

質問9 お正月に鏡餅を飾りますか？  毎年  ときどき  あまり  全然 ➡理由

質問10 鏡餅を飾る意味をご存知でしょうか？  はい➡その意味  いいえ

質問11 鏡餅に関する信仰をご存じですか？  はい➡その信仰  いいえ

質問12 鏡餅を飾る信仰を信じていますか？  はい  いいえ ➡理由

年賀状：

質問1 年賀状を送ったことがありますか？  毎年  全然送ったことがない ➡理由

質問2 誰に送りましたか？  友人  家族  先生  その他：

質問3 送ったことがある方は、どうやって送りますか？  郵送  メール  SNS (LINE など)  
 ショートメール (携帯番号入力)  その他： ➡理由

質問4 年賀状の意味をご存知でしょうか？  はい➡その意味  いいえ

**初詣：**

質問1 初詣に行ったことがありますか？ 毎年 ときどき あまり 全然 →理由

質問2 何の目的で行きますか？

質問3 初詣に行く意味をご存じでしょうか？ はい →その意味 いいえ

質問4 初詣に行く信仰をご存じでしょうか？ はい →その信仰 いいえ

質問5 初詣に行く信仰を信じていますか？ はい いいえ →理由

質問6 初詣に行く時、和服で行きますか？ 和服を着る 和服を着ない →理由

**食事：**

質問1 お正月におせち料理を食べますか？ 毎年 ときどき あまり 全然 →理由

「毎年食べている」、「ときどき食べる」と回答した方はおせち料理をどのように準備しますか？  
手作り お取り寄せ スーパーなどで購入 その他：

質問2 お正月におせち料理を食べる意味をご存じですか？ はい→その意味 いいえ

質問3 お正月におせち料理を食べる信仰をご存じですか？ はい→その信仰 いいえ

質問4 お正月におせち料理を食べる信仰を信じていますか？ はい いいえ →理由

質問5 お正月にお雑煮を食べますか？ 毎年必ず ときどき あまり 全然→理由

質問6 お正月にお雑煮を食べる意味をご存じですか？ はい→その意味 いいえ

質問7 お正月にお雑煮を食べる信仰をご存じですか？ はい→その信仰 いいえ

質問8 お正月にお雑煮を食べる信仰を信じていますか？ はい いいえ →理由

質問9 大晦日に年越しそばを食べますか？ 毎年必ず ときどき あまり 全然

質問10 大晦日に年越しそばを食べる意味をご存じですか？ はい→その意味 いいえ

質問11 大晦日に年越しそばを食べる信仰をご存じですか？ はい→その信仰 いいえ

質問12 大晦日に年越しそばを食べる信仰を信じていますか？ はい いいえ →理由

質問13 1月7日に七草粥を食べますか？ 毎年必ず ときどき あまり 全然→理由

質問14 1月7日に七草粥を食べる意味をご存じですか？ はい→その意味 いいえ

質問15 1月7日に七草粥を食べる信仰をご存じですか？ はい→その信仰 いいえ

質問16 1月7日に七草粥を食べる信仰を信じていますか？ はい いいえ →理由

**お正月に対する考え方：**

質問1 現代の生活が伝統的な文化に影響を与えていると思いますか？ はい いいえ

質問2 「はい」と回答した方はどんな影響を与えていると思いますか？

質問3 現代社会において、伝統的なお正月の祝いはやりやすいですか、やりにくいですか。

やりやすい やりにくい

質問4 質問3で回答した理由をお書きください。

質問5 日本の伝統的なお正月文化についてどう思いますか？

質問6 日本の伝統的なお正月文化というのをイメージしますか？

質問7 お正月文化で何かこだわりのあるものがありますか？（本人でも、家族でも）例として家族で毎年元旦に着物を着てお節料理を食べる など